

入賞

見方

岩出中学校 三年 喜多 美琴

自分らしく堂々と生きることは、ほとんどの人が無理だろう。人前に出ると全然違う自分が現れる。その理由はコンプレックスだと私は思う。例えば、風体のことだと背が高すぎる、低すぎる。能力的なことだと足が遅い、目が悪い。普通の人と違うとそれをコンプレックスとを感じる。

私が中学二年生の時、近く席の人にこんなことを聞かれた。

「喜多ってさ、天然？」

突然、謎の質問をされ戸惑ったが答えはすぐに出た。そう、私のコンプレックスは髪だ。

幼い頃はきれいな髪だったが、小学校高学年あたりからクルクルとくせ毛になっていった。彼の質問に、あまり目を合わせないで、「うん。」と答えた。どんな返事が返ってくるのかとドキドキしながら待った。すると、「へえ、いいな喜多。普通の人と違って。うらやましいわ。」

思いもよらぬ返事が返ってきた。私はそんな風に一度も考えたことがないからだ。この髪を何度恨んだことか。人の髪を何度うらやんだことか。私はただ真っすぐな髪が欲しかった。たまに、心無い言葉で傷つけられることもあった。そんな髪をいいな、ましてはうらやましいと。聞いた当初はどうしたらその考えにたどりつくのだと。少し汚い言葉で言うと、頭おかしいのではないかと思った。だが、同時にうれしかった。

私は、重要なことを教えられた気がした。自分のコンプレックスを短所と見るか、長所と見るかということだ。背が低いというコンプレックスを短所と見ると「チビ」となる。

だが、私はそんな風に思ったことは無い。気にもしない。私の友人で背の低い人が、「みこちゃんはいいな。背が高くて。私なんかさ…。」と言っていた。しかし、それは自分がコンプレックスと感じているからだ。長所と見れば「かわいらしい」「小さな穴でも通りぬけられる」など。普通の人とは違うことで劣等感を感じ、ありのままの自分を隠してしまう。だが、彼に重要なことを教えられた今、私は自問する。「普通とはなんだ？」と。

人は千差万別だ。それなのに普通という固定観念があるのはおかしいのではないだろうか。

コンプレックスは長所にも短所にもなる。大事なのは見方だ。自分のことをどう思うか考え次第だ。人に悪口を言われるのが恐ろしい？当たり前だ。誰だって不快だ。だが、そんな馬鹿みtainな固定観念に縛られていた人のことなど聞かなくていい。なぜなら、あなたの周りにはあなたを理解し、支えてくれる人がいるだろう。今の私の髪は以前と何も変わらずくせ毛だ。だが、支えてくれる人がいるから、また自分に対する見方が少し変化したから気持ちは楽だ。

「逃げたらあかんで。逃げたら追ってくるから。」

昔、祖母が私に言ってくれたことがある。その通りだ。世界でただ一人の自分を最も理解できるのは自分しかない。自分を理解することから逃げては駄目だ。もっともっと自分を知り、他の人の支えになるよう生きていきたい。堂々と生きるのは難しい。だからこそ強く、強く生きていきたい。他人の言うことに縛られず、自分らしい生き方を私は選択しようと思う。長所は短所に、短所は長所になる世界だからこそ、惑わされず生きていく。